

# 一般社団法人ケアの方舟 訪問カレッジ「Be Prau」(埼玉県さいたま市)

## 事業名

超重症児者の「学びたい」を起点とする社会教育施設アクセシビリティ再設計による地域連携体制構築  
～外出困難な人がいることを前提とした学びの機会保障～

## 事業の趣旨・目的

医療的ケア等により外出が困難な超重症児者は、卒業後に学び・文化・対話の機会が急減し、本人と家族が孤立しやすい。さらに「学びたい」意思が過小評価され、機会が善意や例外対応にとどまりがちである。  
本事業は、超重症児者の「学びたい」を起点に、社会教育施設とともに「通える人」前提を更新し、アクセシビリティ再設計を標準設計として具体化する。来館に限らない学び(訪問・配信・巡回・展示等)と担い手育成を組み合わせ、学びの機会保障を地域の当たり前として実装可能な連携体制へつなげる。

## 事業実施体制・連携先

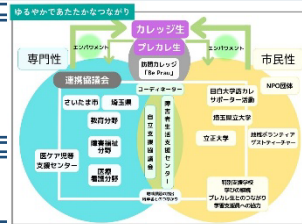
be.prau.231013@gmail.com 目白大学地域連携事業

## 主な対象

超重症児者  
(重度知的・重度身体障害+医療的ケア)

## 活動分野

個の訪問型学習支援と学びの場づくり/社会への調整



## 事業内容

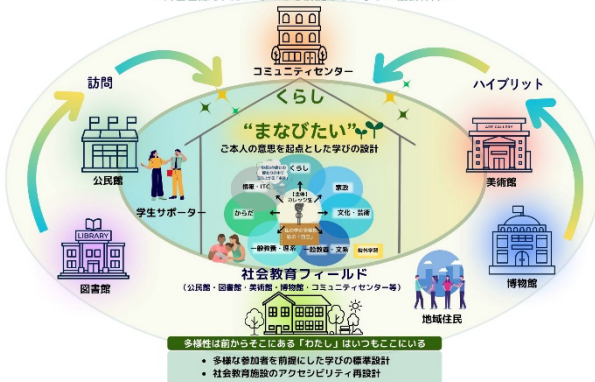
### Mission①

主体を大切に学び支援  
出会いの場づくり

### 関係性構築と主体の立ち上がりを学びの土台に

- \*「学びマップ」を活用して、個別、訪問型の学び・支援のプロセス・対等な主体同士の関係性を可視化して、専門職に閉じないつながりを広げます。
- \*入力機器(スイッチ等)の選定・試行・継続利用を行いICTを“特別な支援”ではなくアクセシビリティとして位置づけ、選ぶ・操作する経験を学びの基盤とする。
- \*訪問・拠点・オンラインを組み合わせたりレバラルーツ実践を継続し、学生サポーター等が「主体×主体」の学び手として参画する。

超重症児者の「学びたい」を起点とする  
社会教育施設アクセシビリティ再設計による地域連携体制構築  
～外出困難な人がいることを前提とした学びの機会保障～



## 社会への調整(構造への働きかけ)

- \*社会教育施設(公民館・図書館・美術館等)と協働し、来館型に限らず、訪問配信・巡回・貸出・成果展示・公開対話等を組み合わせる。
- \*集客や参加者数を中心とした従来の成果指標だけに依存せず、外出困難な人の参加を可能にする設計(参加条件・実施形態・担い手配置)と、学びのプロセス(関係性の構築・選択の増加・アクセスの改善)を成果として評価できる枠組みに更新する。
- \*教育・医療・福祉・行政・大学等との分野横断連携により実装モデル(協働条件・担い手配置・評価軸)を整理し、成果を冊子・動画・研修として公開する。

### Mission ②

一人の声を起点に社会構造を  
問い直し、共生へ踏み出す

## 事業終了後の目指す方向性

### 社会教育施設における インクルーシブ学びの標準設計更新モデル」として継続活用

- ① 役割分担・実施形態・担い手配置・評価軸を体系化し、連携施設の年間計画へ段階的に組み込む。
- ② 学生参画(目白大学サポーター)を継続し、施設職員研修と連動させ担い手育成を拡張。
- ③ 動画・報告書・実装プロセスを公開し、他地域が参照可能な共有資源として蓄積。
- ④ 協働モデルの事業化・共催化の可能性を検証し、持続可能な運営形態を具体化する。

## その他

